

AKI を呈したトスフロキサシンによる cast nephropathy の小児例

◎横山 貴¹⁾、塚原 祐介¹⁾、大沼 榮子¹⁾、磯田 典子¹⁾、平木 一嘉¹⁾、三浦 ひとみ¹⁾、永田 智²⁾、服部 元史³⁾
東京女子医科大学病院 中央検査部¹⁾、東京女子医科大学 小児科²⁾、東京女子医科大学 腎臓小児科³⁾

【はじめに】

トスフロキサシン (Tosufloxacin; TFLX) は、ニューキノロン経口抗菌薬である。2009 年に肺炎、中耳炎に対して小児適用となり処方が増加している。TFLX 投与中の小児例では、腎症もしくは腎機能低下を認める症例があり、その尿沈渣中には TFLX 結晶が認められることが報告されている。今回、TFLX 内服中に、AKI を呈したトスフロキサシンによる cast nephropathy の小児例を経験したので報告する。

【症例】

11 歳女児。主訴：急性腎障害、現病歴：High sensitive person, 感冒による発熱と嘔気があり近医受診し処方された。その後、感冒が長引くため TFLX が処方されたが嘔気・嘔吐が持続し当院小児科を受診した。血液検査で Cre の上昇を認めたため、当院腎臓小児科コンサルタントとなった。既往歴：High sensitive person, 慢性便秘。コンサルト時の検査で、尿定性検査：蛋白 (±), ケトン体 (1+)、その他は全て陰性。尿沈渣検査：赤血球 (1-4/HPF), グリッター細胞 (10-19/HPF), 尿細管上皮細胞 (5-9/HPF), 硝子円

柱 (10-19/LPF), 上皮円柱 (1-4/LPF), 塩類・結晶円柱 (1-4/LPF), 結晶 (2+)。結晶および結晶円柱は、針状、ウニ状を呈していた。生化学検査：CRP : 0.71mg/dL, Cre : 1.46mg/dL。TFLX の中止により、腎機能の改善が認められた。

【考察】

緑淡黄褐色調の細い針状結晶が集合した束状またはウニ状の結晶が、尿細管上皮細胞上および円柱内に認められ TFLX 結晶が考えられた。TFLX の副作用の一つとして急性腎不全や間質性腎炎のような腎障害が知られている。本症例は、脱水とともに尿細管腔での一時的な TFLX の結晶化および閉塞により、TFLX cast nephropathy による AKI を発症したことが考えられた。

【結語】

TFLX cast nephropathy による AKI の早期診断と治療には、TFLX 結晶および TFLX 円柱の報告が有用である。
連絡先 03-3353-8111 (内 21059)